

調査意見書

受理番号 106-84		学校 高等学校		教科 理数	種目 理数探究基礎	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
1	39	5 - 6	重力加速度など、測定値が常に同一になるべきもの。	生徒にとって理解し難い表現である。 (重力加速度の大きさが場所によって異なることを考慮すると説明不足。)	3-(3)		
2	55	上右囲み	「審査を経た報告書を論文という」及び64ページ20-22行「多くの学術雑誌には査読制度(→参照p.15側注1)があり、研究者が投稿した論文を、同じ分野の研究者が読み、内容の妥当性を	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (論文と審査との関係について)	3-(3)		
			審査する。この審査に合格して初めて論文が雑誌に掲載される。」				
3	56	下右囲み	①～③の内容は研究計画書と共通→参照p.33	生徒にとって理解し難い表現である。 (①～③の内容と共通な部分が、33ページの研究計画書のどの部分なのか分からない。)	3-(3)		
4	97	4	この距離の比(離心率 e という)の値	相互に矛盾している。 (10行では離心率 e を値として扱っている。)	3-(1)		
5	119	2 - 3	例えば、58.7 mmという測定値の場合、真の値は58.65～58.75 mmの間にあるので、	生徒にとって理解し難い表現である。 (118ページ14～20行の記述を考慮すると、説明不足。)	3-(3)		
6	122	2	p.122～126は数学Ⅰで学習する内容	不正確である。 (123ページにおいて、数学Ⅰで学習しない内容が扱われている。)	3-(1)		
7	122	3	p.130～141は数学Bで学習する内容(および高等学校の数学の学習範囲をこえる内容)である。	生徒にとって理解し難い表現である。 (「()」をどのような意味で用いているのか分からない。)	3-(3)		
8	123	図2	説明文における「外れ値の目安は、四分位範囲の1.5倍以上離れていることである。」	生徒にとって理解し難い説明である。 (外れ値の目安が、どこから1.5倍以上離れていることなのか分からない。)	3-(3)		
9	124	側注3	「平均値±標準偏差の範囲」他に、131ページ側注4における「 m から± σ の範囲」,「 m から±3 σ の範囲」,133ページ側注1における「平均値±標準誤差の範囲」	生徒にとって理解し難い表現である。 (どのような範囲なのか分からない。)	3-(3)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調 査 意 見 書

受理番号 106-84		学校 高等学校		教科 理数	種目 理数探究基礎	学年
番号	指摘箇所		指 摘 事 項	指 摘 事 由	検定基準	判定
	ページ	行				
10	125	側注1	グラフのx軸には独立変数を、y軸には従属変数を記録する。	生徒にとって理解し難い側注である。 (散布図を作成する際、必ずしも独立変数と従属変数が分かっているわけではない。)	3-(3)	
11	127	側注1	時点 x_i	生徒にとって理解し難い表現である。 (x_i がなぜ時点なのか分からない。)	3-(3)	
12	128	中囲み	「決定係数」全体	生徒にとって理解し難い表現である。 (囲みの説明と図11の残差変動、全変動との関係が分からない。)	3-(3)	
13	130	34	$a \leq X \leq b$	生徒にとって理解し難い表現である。 (32-33行の②の説明との関係が分からない。)	3-(3)	
14	131	側注4	mから $\pm 2 \sigma$ にある確率はおよそ0.95	誤りである。	3-(1)	
15	131	図19	上の図における関数の変数「x」	誤記である。	3-(2)	
16	131	23	x軸	誤記である。	3-(2)	
17	139	図28	「 X_1^- 」, 「 X_2^- 」	生徒にとって理解し難い表現である。 (説明がないので分からない。)	3-(3)	
18	139	12	「p値が棄却域にある」 他に、13-14行「p値が棄却域になければ」	生徒が誤解するおそれのある表現である。 (棄却域の一般的な定義に照らして)	3-(3)	
19	140	図30	キャプションにおける「有位水準」	誤記である。	3-(2)	

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。

調査意見書

受理番号 106-84		学校 高等学校		教科 理数	種目 理数探究基礎	学年	
番号	指摘箇所		指摘事項	指摘事由	検定基準	判定	
	ページ	行					
20	140	図31	「0」（2箇所）	生徒にとって理解し難い表現である。 （なぜ0なのか分からない。）	3-(3)		
21	141	10 - 11	（確率5%で判断が誤りを生ずる）	生徒にとって理解し難い表現である。 （主語と述語の関係が分からない。）	3-(3)		
22	裏表紙	中左	自然現象や社会事象に関する事例	不正確である。 （86ページの表題に照らして）	3-(1)		

検定基準の欄には、義務教育諸学校教科用図書検定基準又は高等学校教科用図書検定基準の第2章及び第3章に掲げる項目のうち、該当するものの番号を示す。